

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は80%、  
現存数は14.5であり、準絶滅危  
惧に相当する。

【形態】

ほとんど赤化しないアカトン  
ボの仲間で、ハネの先端に褐色  
斑があるのが特徴である。ハネ  
の褐色斑をノシメ斑とも呼び、  
愛知県内でも数種が見られるが、  
その中で本種が最も大型である。  
和名はノシメ斑に由来する。



♂. 豊田市大池町, 2017年10月8日, 川田奈穂子 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県のほぼ全域にわたる73市町村で記  
録されている。

【国内の分布】

北海道から九州地方にかけて分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国、ロシア（極東）に  
分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

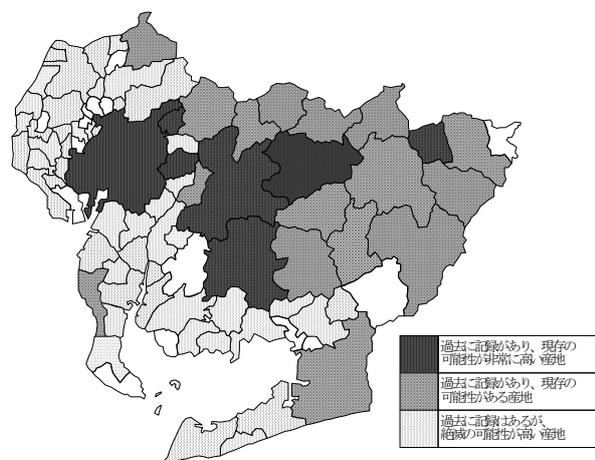
成熟成虫は、水田や湿地、池沼周辺で見ら  
れる。未熟成虫は、発生地を離れる個体もお  
り、市街地付近では神社林などで摂食しなが  
ら過ごすこともある。幼虫は、水田のような  
比較的浅い水域に生息していることが多い。

成虫は6月頃より羽化し、秋になると生殖  
行動が見られる。卵のまま越冬し、翌春孵化  
して初夏に羽化する年一化である。

【現在の生息状況／減少の要因】

2000年頃から水田のアカトンボであるアキ  
アカネが全国的に激減し、その要因の一つが  
ネオニコチノイド系の農薬であることが明らかにされている（上田・神宮寺, 2013）。愛知県も例外で  
はなく、水田を代表するアカトンボであるアキアカネ・ナツアカネ・ノシメトンボは激減した。具  
体的な減少率は100分の1といったレベルではなく、おそらく1万分の1かそれ以上の激減と推測  
される。3種の中で最も減少したのがノシメトンボである。その理由は愛知県のノシメトンボが他2  
種に比べて水田への依存度が高かったためと推測される。かつては平野の水田でも産卵し、周辺の  
公園の樹木や電線に止まる姿が普通に見られたが、現在はごく希な例外を除き、平野では全く姿  
が見られない。愛知県では丘陵～山間の上述の農薬を使っていない水田か、あるいは農薬の入らない  
湿地などで細々と生き残っているに過ぎない。

県内分布図



【保全上の留意点】

- 1) 水田や湿地の水質悪化の防止（特に毒性の強い農薬等の流入防止）
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の林地の確保

【特記事項】

2010年代後半になると、愛知県のアキアカネはごく僅かだが個体が持ち直してきている。といっ  
ても2000年以前の個体数を仮に1万とすると、1まで減った個体が2か3に戻っただけだが、秋に  
なると尾張や西三河の平野部に飛来するようになった。しかし、それらの個体が平野の水田に産卵  
しても、そこに農薬が残留している限り、幼虫が育つことはない。

【引用文献】

上田哲行・神宮宇寛, 2013. アキアカネに何が起こったのか: 育苗箱施用浸透性殺虫剤のインパクト. Tombo, (55): 1-12.

(吉田雅澄)